

2009年
12月11日
金曜日

韓国的な幸せ

嚴 廷美 准教授 (社会言語学)

「儒教の国なのになぜ韓国人は美容整形を多くするのか」という質問をよく受けるが、今日はその答えについて考えてみたいと思う。韓国の6割の女性が整形をしているという統計もあるほど、確かに韓国では整形をする人が多く、整形することへの抵抗感も低いように思われる。その背景には、韓国人の求める幸せ観があるのではと思う。まず、幸せになるためには、どこの国の人も健康であることが最も重要であり、健康とは、いうまでもなく肉体的、精神的、社会的健康の三位一体の状態を意味する。では、まず、韓国の人の肉体的健康の維持方法について考えてみよう。韓国では、心身ともに健康であろうとするライフスタイルを指すウェルビーイング (Well-being) という言葉が非常に流行しており、日ごろの食事や運動などに気を配っ

ている。韓国は、薬食同源の国であり、料理やお菓子、酒やお茶についても薬膳をベースにした発想が見られ、食すること自体、「補身」の行為であり、栄養バランスの取れた自然食や薬食同源をコンセプトにした食事が人気である。韓国ドラマ「宮廷女官チャングム」や「ホジュン」を見た人は、韓国は昔から漢方薬を用いた医学が発達していることが分かるだろうが、現在も韓国では、西洋医学と同じくらい東洋医学が発達し、生活の一部になっている。「補薬」といって、健康な人も疾病の予防や健康維持のために、漢方薬を飲んでいる。こうした韓国ならではの漢方の処方や飲み方があることから、漢方薬を「韓薬」といい、その医学を「韓医学」という。健康な身体を維持しようとする身体文化は、食事や「補薬」のほかに運動やサウ

ナにもよく見られる。公園や一般のマンション (韓国ではアパート) には、多様な運動器具が住民のために設置されており、スポーツクラブに通わなくても、手軽に運動ができるようになってきている。また、観光ガイドにもよく紹介されるように、「汗蒸幕」や日本の健康ランドのような室内レジャー施設とでも言える「チムジルバン」に通う習慣も韓国人の身体を労わる行為であろう。こうした身体へのいたわりとは別に、整形大国とも言われるほど美への関心も強く、女性に限ったことではないが、特に女性には「美しくあるべきだ」という美人至上主義が広まっている。韓国語には美しいものを賞賛する「どうせなら朱色のスカート」という言葉があるほど、高い美意識が社会的に求められ、その一環として美容整形がなされていると思う。

韓国は周知の通り、儒教の国で、儒教の思想は人々の生活や価値観に深く関係している。儒教では「身体は祖先の亡骸である」とし、祖先から譲り受けた身体を傷つけることはいけないとされている。しかし、現在の韓国では、このような伝統的な価値観より、社会的な要求に積極的に対応することによって、社会的な幸せを勝ち取ることがより優先されているといえよう。こうして身体的健康と社会的な健康を保つことによつて、精神的な健康が得られ、日常の幸福感を満たすところに、韓国的な幸せがある。この幸せの輪の中に、美容整形という人間のささやかな努力があるというのは言い過ぎなのだろうか。